

FIP IT BOX

ASPニュース

Contents / May.2001

モバイル “話す道具”から“使う道具”へ
 モバイルインターネットの到来
 FIPが提供するモバイルサービス
 FIPの今後の取組み

発行日 2001年5月17日
 発行元 販売推進統括部 企画推進部
 東京都江東区青海2-45 タイム24ビル
 連絡先 03-5531-5120/info@fip.co.jp
 URL <http://www.fip.co.jp/>

富士通エフ・アイ・ピー株式会社

モバイル

“話す道具”から“使う道具”へ

今や日常生活に欠かすことのできない「携帯電話」。本年3月末時点での加入者数は6,000万人（*電気通信事業者協会調査）を突破し、国民の二人に一人は持つ時代となってきました。また「ブラウザフォン」と呼ばれるインターネット接続機能を持つ携帯電話の利用者も3,400万台に達し、まさに移動体通信分野は活況を呈しています。

利用形態の変化

その先導役となったのは、言うまでもなくNTTドコモの「iモード」。パソコンやPDA（携帯情報端末）と接続することなくインターネットに接続できるという利便性が一般消費者に受け入れられました。

iモードの登場以降、携帯電話が単なる通話を目的としたものではなく、「使う道具」へと進化をし始めています。郵政省（現：総務省郵政事業庁）が平成12年3月にまとめた「2010年の社会生活における情報通信イメージ」の中でも、モバイルの幅広い利用例が紹介されており、今後は行政・教育・医

療・防災・娯楽など様々なシーンでモバイルサービスの利用が不可欠となっていくでしょう。

進む技術革新

本年より次世代（第三世代）携帯電話と呼ばれる「IMT-2000」*1が全世界に先駆けて日本でスタートする予定です。これは、高速・大容量いわゆるブロードバンドのネットワークをモバイルで利用できるもので、ビデオメールなどデータ容量の大きい映像情報も手軽に扱えるようになります。

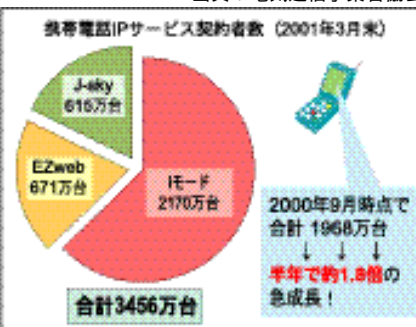
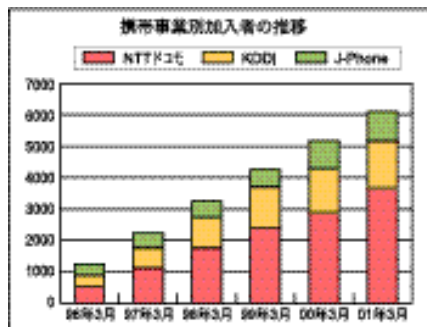
現在の計画では2004年には人口の

80%がカバーされる見込みで、「JAVA」*2「Bluetooth」*3など新技術の導入でその可能性は大きく広がると予想されます。

またIMT-2000では、「UIM」*4という電話番号などのユーザ情報を記憶させ携帯電話に装着するICカードが導入されます。現在ヨーロッパで普及している「SIM」*5カードと同様に、1契約で複数の端末を使ったり、1台の端末で複数の事業者を使い分けたりすることができます。更にこのカードには、住民票・免許証など個人の証明機

【携帯電話 事業者別加入者の推移と携帯IPサービス契約者数】

出典：電気通信事業者協会

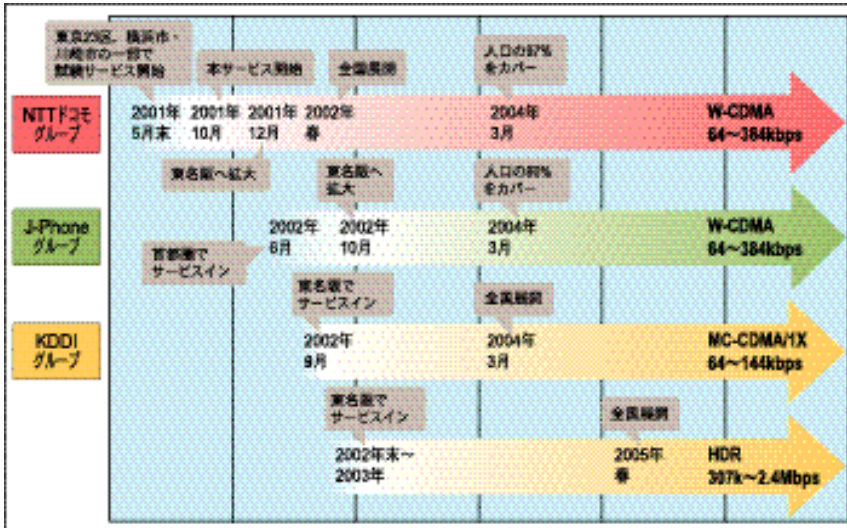


【21世紀の情報通信とモバイル・インターネット】



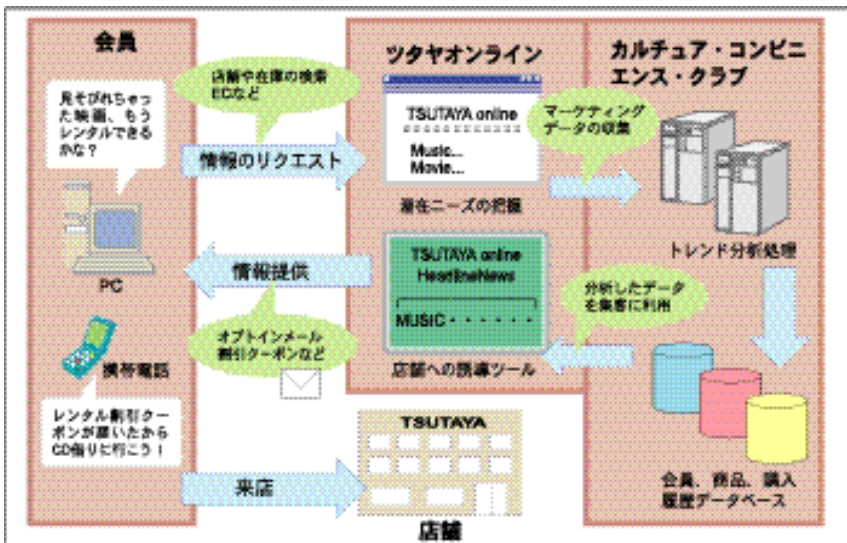
参考：郵政省 21世紀の情報通信ビジョン IT JAPAN for ALL(H12/3 電気通信審議会)

【携帯電話事業者の第三世代携帯電話の展開計画】



出典：日経BP社 モバイル・インターネット最前線
注：2001年4月26日 NTTドコモ発表資料をもとに一部修正

【ツタヤオンラインのビジネスモデル】



出典：日経BP社 モバイル・インターネット最前線

能の搭載が検討されており、電池の小型化・音声連携機能の強化などのインターフェース面で、今後大きな改善が行われるでしょう。

*1 IMT-2000

ITU(国際電気通信連合)が標準化を進める次世代移動通信システム

*2 JAVA

Sun Microsystems社の開発したプログラミング言語

*3 Bluetooth

パソコンや家電・携帯電話など様々な機器間でのデータ交換を実現するワイヤレス通信技術

*4 UIM : User Identity Module

*5 SIM : Subscriber Identity Module

モバイル・コマース

最近、このブラウザフォンをビジネスに生かす「モバイル・コマース」が盛んになってきています。ここで幾つかの事例をご紹介します。

マーケティング/オプトインメール クリック・アンド・モルタル型企業で有名なカルチュア・コンビニエンス・クラブ殿の「ツタヤオンライン」では、店舗へ顧客を誘導するマーケティングツールとしてモバイル・コマースを活用しています。ビデオのレンタル開始日やCDの新譜発売日などに、割引クーポンの付いたメールを携帯電話などに配信することでユーザの来店を促しています。

また、レンタル履歴などからユーザの嗜好を分析し、ユーザの欲しがる情報のみを電子メールで送る「オプトインメール」なども展開しています。

携帯配車システム

バイク便大手の(株)ダットジャパン殿では、iモード端末による配車システムを1999年8月より稼働。300台以上のライダーとオペレーター間の連絡・業務指示などに使われています。これにより、ライダーが連絡を受けてから本部へ電話を掛け直す手間がなくなり、連絡ミスの防止やオペレータの受注業務の効率化が図れました。

FIP が提供するモバイルサービス

グループウェア連携

携帯電話の特性を活かしたビジネス利用という面では、まず「グループウェア連携」が挙げられます。実際、多くのグループウェアがiモードなどに対応してきています。最近では、ワークフローや出退勤管理など業務システムへのアクセス機能をもつパッケージやサービスも出てきており、今後更に発展が期待される分野と言えます。

当社 ASP サービス『BeStage』で提供する「ExtraPort」は、iモードからメールの送受信や掲示板、スケジュール確認などのコミュニケーション機能を利用できます。またメールをフィルタリングして転送するなど、便利な機能を豊富に用意しています。

学内掲示板を閲覧

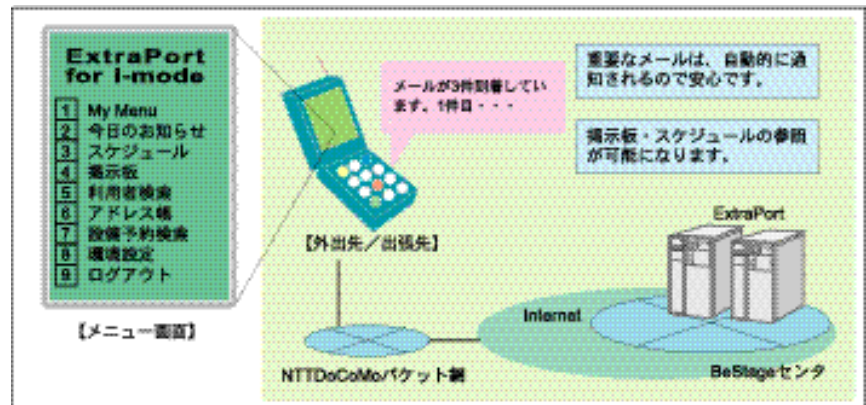
携帯電話の所有率が高く、かつ使いこなしている世代は、言うまでもなく大学生でしょう。一人暮らしの学生の携帯電話所有率は、ほぼ100%とも言われています。このような学生をターゲットに、学内掲示板情報を携帯電話から閲覧できるようにしたサービスが「MobileCampus」です。

通常、大学に行かないと見られない掲示板情報を「いつでも」「どこでも」確認することができ、かつメールでリアルタイムに大学からの連絡事項を知らせてくれます。せっかく大学に行っても、教授の急用で『休講』になったことは誰しも経験があることでしょう。「情報の質と量をあげて、学生の効率的な時間の使い方を促す」大学から学生への新しいサービスとして期待されています。

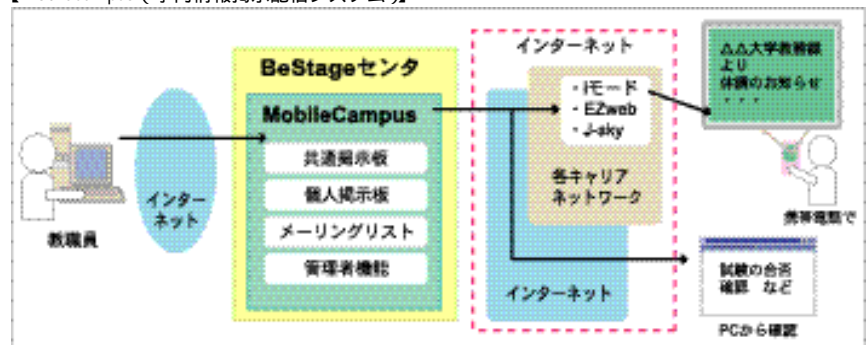
家庭と塾の情報化

塾業界大手である(株)学舎殿(大阪)と(株)日能研関東殿(神奈川)では、当社が提供する家庭と塾との情報化支援サービス「Mobile Seminar」(モ

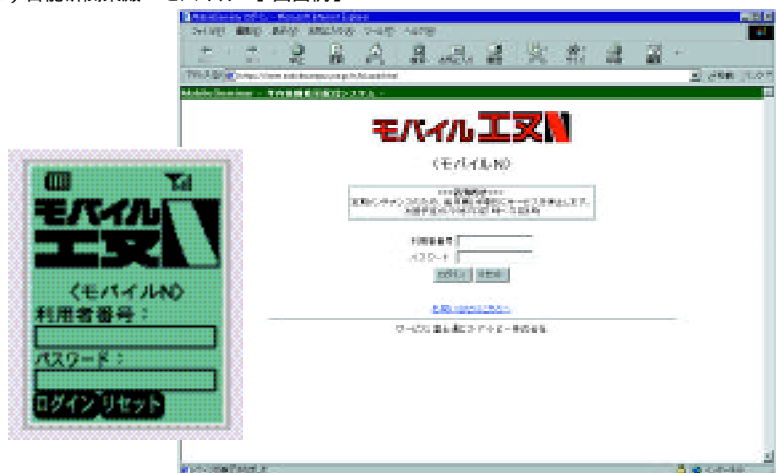
【ExtraPort iモード連携オプション】



【MobileCampus (学内情報掲示配信システム)】

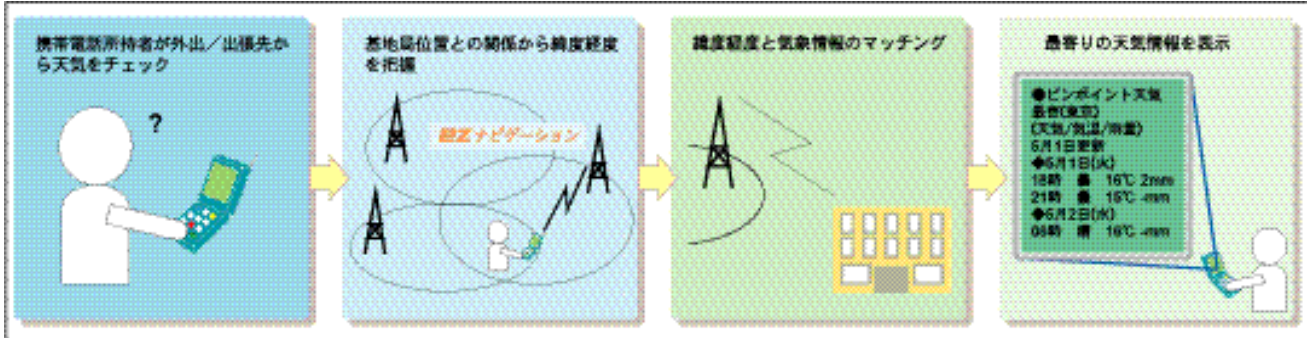


【(株)日能研関東殿「モバイルN」画面例】



バイル・ゼミナール)を利用しています。現在は各塾とも限定校舎での試行段階ですが、塾からは家庭(保護者)に対して父母会の申込開始や締切の案内、テストの終了時間やテス

ト全体の平均点などを配信しています。家庭からの申込み状況も好調で、今後は塾から家庭への定番サービスとして期待できます。



気象情報サービス

KDDI グループのモバイル・インターネットサービス「EZweb」において、当社は日本気象協会と提携し、全国850地点のピンポイント天気予報などの各種気象情報サービスを提供しています。

また、携帯電話の位置情報機能「EZナビゲーション」に対応し、現在地の気象予報を自動検索する「ドコでも天気」など、新サービスの提供にも積極的に取り組んでいます。

携帯からガスの点検受付

当社では、携帯電話やパソコンから都市ガス点検希望日を受け付けるシステムの開発と運用を行っています。ガスの定期検査時に不在だった場合、携帯電話等から点検希望日や時間帯をリクエストできるもので、検針員側も再訪問時に確実に検査できるようになります。このように、公共分野での携帯電話利用も急速に進展していくことでしょう。

FIPの今後の取組み

携帯キャリアと技術提携

モバイル・インターネットの普及には、携帯電話事業者（キャリア）と情報・サービスを提供する企業との連携が欠かせません。携帯電話によるインターネットサービス開始以降、キャリアはまずゲームソフト企業などのコンテンツ事業者と組んで、主にコンシューマ向けにサービスを提供してきました。しかし最近では、システム・プロバイダと提携し企業を対象にした動きが顕著になってきており、今後も

更なる伸びが予想されます。

当社でも現在各キャリアとの技術提携を進めています。キャリアと戦略的アライアンスを組むことにより、市場や技術動向をすばやく察知し、お客様にタイムリーなサービスを提供していくことを目指しています。

モバイル・ソリューションを拡大

更に当社では、長年培ってきたアプリケーション開発やEC/EDIなどの運用サービスのノウハウをベースに、SI(システム・インテグレータ) ASP(アプリケーション・サービス・プロバイダ)として、モバイル・インターネットへの取組みを強化しています。富士通(株)の携帯電話ソリューション「Fmobile」においても、先にご紹介した「MobileCampus」を提供しており、「モバイルのFIP」のイメージ確立を目指した展開を行っています。

モバイル・ビジネスの可能性は無限に広がります。ただ「携帯電話への

過度の期待は誤りである」(Gartner Japan JWDS Research Note March 9,2001)との指摘もあるように、携帯電話がパソコンやテレビなどに置き換わり、ビジネスや生活の主役となることは困難でしょう。表示・処理・操作性などパソコンなどと比べて劣る点が幾つもあるからです。

しかし、これほど個人のビジネスや生活に密着した機器が他にあるでしょうか。携帯電話は指摘される物理的制約を補ってあまりある利便性を持っており、現在のわれわれの生活空間に一番近い情報機器と言えます。

あの小さな画面にいかにかサービス・機能・使い方を詰めこむか、それは企業や個人の「スタイルの変革」を促すものです。市場・技術動向を素早く見極め、お客様の業務のあり方を正しく捉えた最適なモバイル・ソリューションを今後も提案していく予定です。

【FIPのモバイル・ソリューション】

